資料　2
2020.3.2

スーパーグローバル大学創成支援事業
令和２年度実施中間評価に係る基本的方針（改正案）

令　和　元　年　１　２　月　２　日
文部科学省高等教育局高等教育国際戦略プロジェクトチーム
改　正　　令　和　２　年　３　月　２　日

国際化拠点整備事業費補助金（以下、「補助金」という。）により実施される「スーパーグローバル大学創成支援事業」（以下、「本プログラム」という。）の中間評価は、同基本的方針を踏まえ、スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会（以下、「委員会」という。）において決定する中間評価要項に基づき、実施する。

１．評価の目的

本プログラムに採択され、徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行う大学や、我が国社会の国際化を牽引する大学による各事業の取組状況等を評価するとともに、事業目的が十分達成されるよう助言を行うことで、事業の適切かつ効果的な実施を促す。

２．評価の時期

令和２年度に中間評価を実施する。

３．評価の対象年度

原則として令和元年度末までの取組状況を対象とする。

なお、令和２年度の取組状況のうち、大学が積極的に調書に記載する実績については、その提出時までの実績を評価の対象とする。

４．評価の体制

委員会の下に、有識者からなる評価部会を設置し、中間評価を実施する。

５．評価の実施

各事業の進捗状況や目標の達成状況等について、実効性のある評価を実施するために、評価の項目や実施方法等は次のとおりとする。

（Ⅰ）評価項目

（１）項目別評価

１．取組状況

これまでの取組状況について、アウトカム（アウトプットがもたらす状況の変化、人の行動変容、その他成果）と関連付けて、事業の成果又は発展への課題等の評価を行う。

２．目標の達成状況

各大学のロジックモデル［各大学の構想（事業目的）の実現に至るまでの因果関係の仮説を体系的に図示したモデル図］における初期アウトカムと関連付けて評価を行う。その際、既に中・長期アウトカムが得られていることが認められる場合は加点の対象とする。

なお、①成果指標と達成目標に関して、大学が選択していない項目については各数値のフォローアップを行うこととし、評価の対象にはしない。

３．財政支援期間終了後を見据えた自走化

補助金による支援終了後を見据えた自走化の計画の内容及び進捗状況について、中・長期アウトカムと関連付けて、①徹底した「大学改革」と「国際化」の断行による大学の体制や組織文化そのものの国際通用性の強化及び大学の国際競争力の向上と、②財政支援期間終了後を見据えた財源確保の２つの観点から評価を行う。

４．経費（補助金等）の使用状況

１．取組状況、２．目標の達成状況については、経費（補助金等）が適切かつ効果的に使用されたか、投入された補助金額に比して十分な取組が行われたか、また、３．財政支援期間終了後を見据えた自走化の~~計画の~~進捗状況については、経費の使用状況を考慮の上、評価を行う。

（２）総括評価

「（Ⅰ）項目別評価」における評価結果を踏まえ、各事業の実績の全体について評価を行う。

（Ⅱ）評価方法

委員会の下に設置される評価部会において書面評価※及び面接評価、並びに必要に応じて現地調査を行い、その結果に基づき合議評価を実施する。

評価部会は、審査結果及び平成２９年度中間評価結果等も活用し、評価対象に応じた適切な方法により、評価目的が達成されるよう、中立・公正かつ効率的・効果的な評価を行う。

※書面評価の評価資料として、公募要領に示す構想等の実施状況についての独自の評価（外部有識者で構成する委員会による評価結果等）の結果を含めるものとする。

令和２年度実施中間評価に係る基本的方針案（評価項目）

令和２年３月２日改正

大学が作成したロジックモデルを参考に、アウトカム（※）と関連付けて、事業の実績及び自走化について評価を行う。

Ⅰ．項目別評価

１．取組状況

以下の項目ごとに、**アウトカムと関連付けて**、事業の成果又は発展への課題等の評価を行う。

①構想の実施状況（補正後の構想について評価）
②構想実現のための体制構築
③平成29年度中間評価留意事項への対応
④国際的評価の向上（タイプＡのみ）
⑤国際的評価に関する教育･研究力（タイプＡのみ）
⑥大学の特性を踏まえた特徴（タイプＢのみ）

２．目標の達成状況

以下の項目ごとに、**各大学のロジックモデル（※）における初期アウトカムと関連付けて**評価を行う。**中･長期アウトカムが得られていることが認められる場合は加点の対象**とする。大学が選択していない項目は、各数値のフォローアップを行うこととし、評価の対象にはしない。

①成果指標と達成目標（共通項目、選択項目）
②大学独自の成果指標と達成目標

３．財政支援期間終了後を見据えた自走化

補助金による支援終了後を見据えた**自走化の計画の内容及び進捗状況**について、**中･長期アウトカムと関連付けて、**①徹底した「大学改革」と「国際化」の断行による大学の体制や組織文化そのものの国際通用性の強化及び大学の国際競争力の向上と、②財政支援期間終了後を見据えた財源確保の２つの観点から評価を行う。

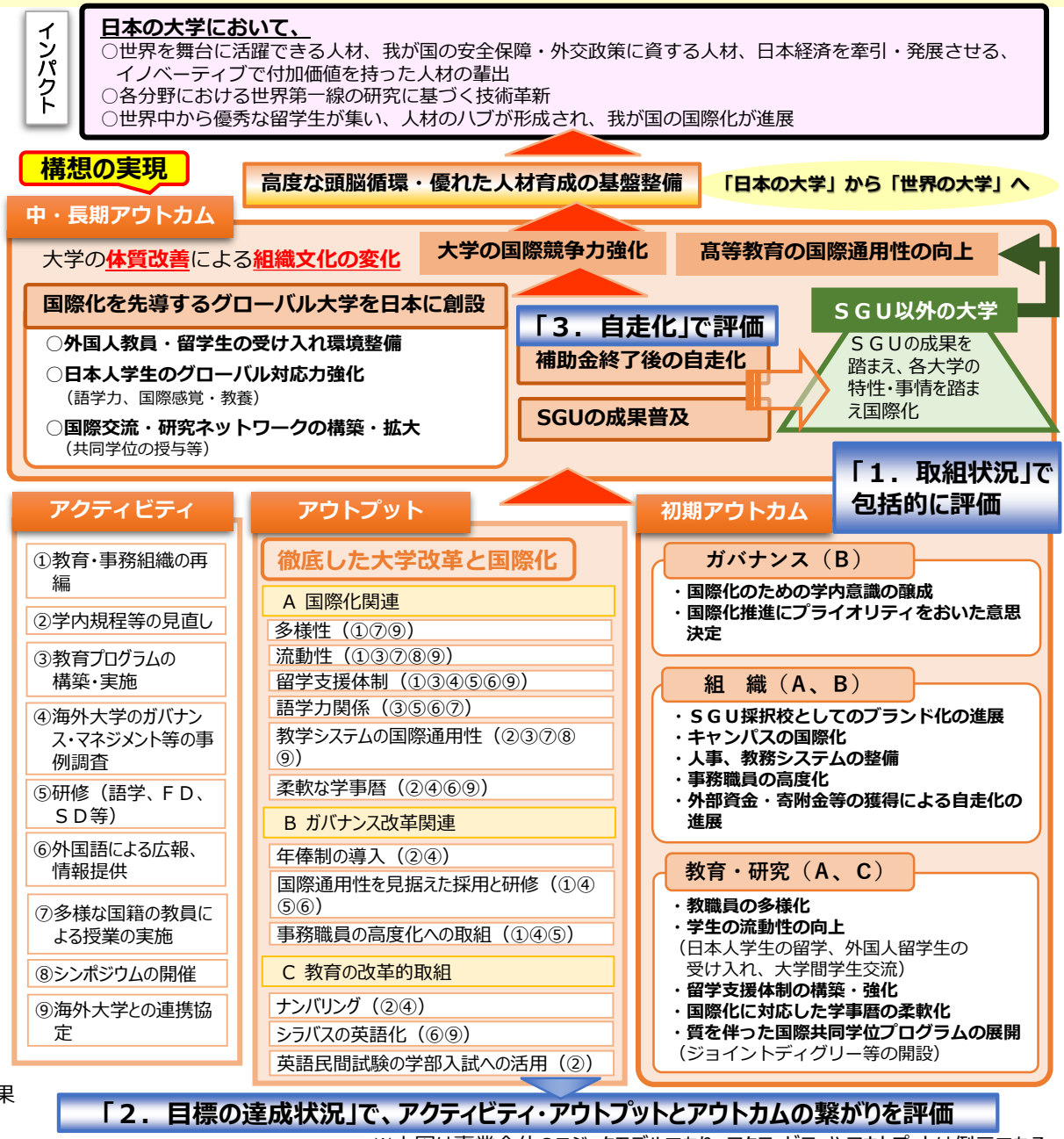
４．経費（補助金等）の使用状況

経費（補助金等）が適切かつ効果的に使用されたか、投入された補助金額に比して十分な取組が行われたか、及び自走化の進捗状況を評価するという観点から考慮する。

Ⅱ．総括評価

「Ⅰ．項目別評価」における評価結果を踏まえ、各事業の**実績の全体**について評価を行う。

（※）用語の意味
・アウトプット：アクティビティによる活動実績
・アウトカム：アウトプットがもたらす状況の変化、人の行動変容、その他成果
・ロジックモデル：各大学の構想（事業目的）の実現に至るまでの因果関係の仮説を体系的に図示したモデル図。



※上図は事業全体のロジックモデルであり、アクティビティやアウトプットは例示である。